

令和 3 年 5 月 13 日現在

機関番号：23702

研究種目：若手研究(B)

研究期間：2015～2020

課題番号：15K20769

研究課題名（和文）精神科における退院支援上の専門職連携強化のための看護師現任教育プログラムの開発

研究課題名（英文）Development of an In-Service Nursing Education Program to Enhance Professional Collaboration During Hospital Discharge Support in Psychiatric Hospitals

研究代表者

葛谷 玲子 (KUZUYA, REIKO)

岐阜県立看護大学・看護学部・講師（移行）

研究者番号：30598917

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 1,300,000円

研究成果の概要（和文）：本研究の目的は、精神科病院における専門職連携を基盤とした退院支援に必要な看護実践能力を獲得するために必要な看護師現任教育プログラムを作成することである。精神科病院における専門職連携を基盤とした退院支援に必要な14の看護実践能力を明らかにし、この能力を獲得するための14の学習のねらいと24の教育方法を整理した。例えば、「患者の力を信じて失敗を恐れず退院にトライする」能力獲得のためリハビリ志向、ストレングスモデルに基づくアセスメントができることをねらいとして「リハビリ志向、ストレングスモデルに基づくアセスメントについては、講義形式だけでなく、日々の実践を基盤に学ぶ」等の方法を示した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

退院支援において専門職連携は不可欠であり、精神科病院も例外ではない。本研究では、まず精神科病院における専門職連携を基盤とした退院支援に必要な看護実践能力を明らかにした。この能力は、精神疾患の特性や長期入院の問題、看護師に生じる考え方の特徴などを踏まえた内容であり、精神科病院における専門職連携を基盤とした退院支援に必要な看護実践能力を高めるための教育を考えるうえで重要な意味をもつと考える。看護実践能力のうち「患者の退院を諦めない」など看護師の意思や態度に係る能力についても教育のねらいと方法を明らかにすることができ、看護師が専門職連携を基盤とした退院支援に必要な看護実践能力の向上に役立つと考える。

研究成果の概要（英文）：The purpose of this study is to create an in-service nurse educational program needed for nurses to acquire nursing practice competencies required for discharge support based on professional collaboration in psychiatric hospitals. Fourteen nursing practice abilities required for discharge support based on professional collaboration in psychiatric hospitals were clarified, followed by the summarization of 14 learning objectives and 24 teaching methods for acquiring this competency. For example, in order to acquire the ability to “try to support discharge without fear of failure by believing in the patients’ ability,” the program presented methods such as “learning from daily practice and not just from lecture formats with regard to recovery-oriented, strength-model-based assessment” with the objective of “being able to form a recovery-oriented, strength model-based assessment.”

研究分野：精神看護

キーワード：専門職連携教育 退院支援 精神看護

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19 (共通)

1. 研究開始当初の背景

日本の精神医療は他国に比べて脱施設化が遅れている。そのため、2004 年より「入院治療中心から地域生活中心へ」という基本方針を掲げ、精神保健医療福祉改革が進められている。それでも、1 年以上の長期入院患者は約 20 万人であり、そのうち毎年約 5 万人が退院しているが、新たに毎年約 5 万人が 1 年以上の長期入院に移行しており、入院 1 年以上の入院患者数に大きな変化はない(厚生労働省, 2014a)。そのため、改正精神保健福祉法に基づく良質かつ適切な精神障害者に対する医療の提供を確保するための指針(厚生労働省, 2014b)では、1 年未満で退院できるような体制を確保するよう明示されており、多職種チームによる質の高い医療を提供し、退院支援を推進することが示されている。しかし、精神科長期入院患者に対する退院支援上の困難として、他職種と連携した活動が少ない、他職種と連携する具体的方法がわからない、医師と対等に話ができない、などが明らかとなっており(石川ら, 2013)。専門職連携上の困難の解消にはコミュニケーション能力などの看護実践能力の向上が必要であり、そのための看護師の教育が不可欠である。これらのことから、精神科病院における専門職連携を基盤とした退院支援の質を高めるための現任教育が必要であると考えられる。

2. 研究の目的

- (1)精神科病院における専門職連携を基盤とした退院支援の質を高めるための現任教育プログラムの作成に向けて、精神科病院における専門職連携を基盤とした退院支援に必要な看護実践能力(以下、精神科病院におけるは省略)を明らかにすることを目的とする。
- (2)専門職連携を基盤とした退院支援に必要な看護実践能力を獲得するために必要な看護師現任教育プログラムを作成することを目的とする。

3. 研究の方法

- (1)精神科病院における退院支援上の専門職連携の影響要因に関する調査(調査1)
対象者は、民間単科精神科病院5施設に勤務し、専門職連携上の課題を認識していると看護師長が推薦した看護師を対象とした。データは、半構成的面接を用いて収集し、調査項目は、退院支援における専門職連携の実際、考え方や姿勢、困難や苦勞、対処や工夫等とした。
- (2)専門職連携を基盤とした退院支援に必要な看護実践能力に関する調査(調査2)
対象者は、多職種連携による医療を推進している単科精神科病院2施設の看護部の教育責任者と退院支援において専門職連携を意識的に実施している病棟看護師とした。データは、半構成的面接を用いて収集し、調査項目は、退院支援における専門職連携で意図的に実施していることや専門職連携に必要だと考える能力等とした。加えて、調査1で明らかにした専門職連携の阻害要因を資料に示し、これらを解消、低減する観点からも意見を得た。
方法(1)(2)ともデータは質的帰納的に分析を行った。
- (3)専門職連携を基盤とした退院支援に必要な看護師の能力獲得につながる現任教育の実際に関する調査(調査3)および専門職連携教育に関する文献レビュー
対象者は、調査2と同じである。データは、半構成的面接を用いて収集し、調査項目は、退院支援における専門職連携で必要な能力獲得のための教育、学習方法等とした。データは質的帰納的に分析した。また、専門職連携の現任教育に関する26文献を対象に内容分析を行い、教育活動の目的・目標、方法を整理した。調査3で明らかにした「教育方法・学習方法とそのねらい」「研修会の内容」と文献レビューで明らかにした「研修会等の目的・目標」を調査2で明らかにした「専門職連携を基盤とした退院支援に必要な看護実践能力」に照らして整理した。
- (4)専門職連携を基盤とした退院支援の質を高めるための現任教育プログラム案の作成
調査2および調査3の結果を踏まえて、精神科病院における専門職連携を基盤とした退院支援の質を高めるための現任教育プログラム案(以下、現任教育プログラム案とする)を考案した。
- (5)専門職連携を基盤とした退院支援の質を高めるための現任教育プログラム案についての意見聴取(調査4)
対象者は、調査1で対象とした民間単科精神科病院のうちの4施設の看護部の教育責任者とした。データは、半構成的面接を用いて収集し、現任教育プログラム案についての意見を聴取した。データは質的帰納的に分析を行った。
- (6)専門職連携を基盤とした退院支援の質を高めるための現任教育プログラム案の洗練
精神科病院における専門職連携を基盤とした退院支援の質を高めるための現任教育プログラム案について調査4の分析結果を踏まえて、プログラムの内容を検討した。
- (7)倫理的配慮
研究者所属大学倫理委員会の承認を得、対象者に研究目的と方法、権利等を口頭と書面で説明し、同意を得て実施した。

4. 研究成果

- (1)精神科病院における退院支援上の専門職連携の影響要因
対象者は、急性期病棟の看護師8名、慢性期病棟の看護師10名であった。平均年齢は41.4歳、看護師経験年数は平均12.8年(4年から33年)、精神科の勤務経験年数は平均9.8年(1年から28年)であった。
退院支援における専門職連携への影響要因として、198のコードから59の小カテゴリ、27の

大カテゴリを生成し、10に分類した。大カテゴリのうち、11が促進要因、16が阻害要因であった。阻害要因には 長期入院患者への関心の低下や現状維持・安全への焦点化 支援における先の見通しをもつことの困難さ 退院をすすめる国の方針があるにも関わらず診療報酬や体制が伴わない現状 退院に関わる社会資源や支援の少なさ など精神科病院ゆえに生じやすい要因が含まれた。また、他職種や外部支援者の支援内容や連携方法についての知識不足 や 社会資源についての知識不足 などの知識にかかわる要因に加えて、連携がうまくいかなかった経験 や 実践上の連携の経験の少なさ などの経験にかかわる要因があった。また、退院支援に対する消極的態度 や 医師とのコミュニケーションの取りづらさ など退院支援に対する態度や関係性にかかわる要因もあった。

(2) 専門職連携を基盤とした退院支援に必要な看護実践能力

対象者は、B県とC県の単科精神科病院に勤務する、看護部の教育責任者2名、急性期病棟の看護師2名と慢性期病棟の看護師2名であった。平均年齢は38.3歳、看護師経験年数は平均14.2年(8年から28年)、精神科の勤務経験年数は平均11.5年(7年から15年)であった。

精神科病院における専門職連携を基盤とした退院支援に必要な看護実践能力として101のコードから38の小カテゴリ、14の中カテゴリ、3の大カテゴリを生成した。専門職連携を基盤とした退院支援に必要な看護実践能力として【患者の力を信じて患者中心の退院支援を推進する】【退院への抵抗・困難があっても諦めずコツコツと支援する】【自職種・他職種の専門性を理解して互いに補完・協力しながら支援する】の3つが明らかになった。

【患者の力を信じて患者中心の退院支援を推進する】能力には〔患者の意向や気持ちを一番に考える〕能力、〔患者の力を信じて失敗を恐れず退院にトライする〕能力、〔長期入院に問題意識をもち患者の地域生活移行を目指す〕能力、〔どの患者にも退院に向けての見通しをもつ〕能力が含まれた。【退院への抵抗・困難があっても諦めずコツコツと支援する】能力には、〔退院支援に率先して取り組む〕能力、〔患者の退院を諦めない〕能力、〔退院に反対・消極的な人がいても支援に取り組む〕能力、〔慢性期にある患者にも退院に向けてコツコツと支援する〕能力が含まれた。【自職種・他職種の専門性を理解して互いに補完・協力しながら支援する】能力には、〔多職種連携の必要性を理解する〕〔退院・地域生活移行を支援するという目標・方針を組織内で共有する〕〔退院に向けて必要な支援や社会資源についての知識をもち利用につなげる〕〔他職種と意見交換をして看護師としての支援を考える〕〔他職種の専門性を考慮して支援の依頼や相談をする〕〔他職種への感謝と理解をもとに役割を超えて協力する〕の6の能力が含まれた。

(3) 専門職連携を基盤とした退院支援に必要な看護師の能力獲得につながる現任教育の実際および文献レビュー

分析の結果、専門職連携を基盤とした退院支援に必要な看護師の能力獲得につながる現任教育として、13のねらいと8の教育方法、13の学習方法が明らかとなった。また、専門職連携教育に関連する11の研修会が確認できた。さらに、文献レビューからは、専門職連携の現任教育として18の目的・目標が整理された。

【患者の力を信じて患者中心の退院支援を推進する】能力に関連して、患者・家族の思いを中心に考えることをねらいとしたストレングスの視点で患者をみることをねらいとした《看護学校の授業で習った内容を活用する》という学習方法や 上司がストレングスの視点で患者をみる という教育方法等があった。また、患者が退院せず入院したままで良いのか疑問をもつことをねらいとした 他看護師に長期入院について疑問を投げかける という教育方法があった。さらに、退院に向けてアセスメントや支援を再検討することをねらいとした 退院に向けて考える機会や話し合う機会をつくるための声かけをする という教育方法があった。【患者の力を信じて患者中心の退院支援を推進する】能力に含まれる4つの能力に関連する研修会は実施されていないかった。また、文献から整理した研修会等の目的・目標で該当するものはなかった。

次に、【退院への抵抗・困難があっても諦めずコツコツと支援に取り組む】能力に関連して、退院支援に積極的に取り組むことをねらいとした《退院支援を経験して患者の変化を実際に知る》という学習方法や 上司が率先して退院支援に取り組む という教育方法があった。この能力に関連する研修会は実施されていないかった。しかし、文献から整理した研修会等については「テーマに関する理想や自分たちができることについての検討」「今後の目標についての計画立案・実行」「多様性・異質性の認識と承認」「コミュニケーションの促進」という研修会等の目的・目標が関連していた。

さらに、【自職種・他職種の専門性を理解して互いに補完・協力しながら支援する】能力に関連して、多職種連携の実際や必要性がわかることをねらいとした 様々な病棟、部署で勤務をして連携の実際をみる という学習方法、病院・病棟の方針を理解することをねらいとした 病院・病棟の方針を看護師に伝える という教育方法があった。また、社会資源の内容やその利用者の状況がわかることをねらいとした《社会資源について精神保健福祉士にきく》《訪問看護師に当事者についての話をきく》などの学習方法があり、多職種カンファレンスでファシリテーションをすることをねらいとして《先輩看護師のファシリテーションの実際を見る》という学習方法などがあった。また、多職種カンファレンスに参加して何を話せばよいかわかることをねらいとし

た 多職種カンファレンスに参加して何を話せばよいかプリセプターが教える という教育方法や、退院前訪問指導での確認内容がわかることをねらいとした《看護師のカンファレンスの場で退院前訪問指導の際に確認が必要な内容を確認する》などの学習方法があった。さらに、退院に向けて看護師が自分で判断して支援を進めることをねらいとして《退院した事例を共有する》という学習方法などがあった。また、他職種や多職種チームについて知ることを目的とした研修会、デイケアや福祉施設などの見学や統合失調症患者に対する心理教育についての研修会が実施されていた。さらに、カンファレンスやファシリテーションについての研修会、退院調整カンファレンスのチェックシートに関する勉強会があった。そして、文献から整理した研修会等の目的・目標として、「組織の理念の理解の深化」「IPW の理念・構造・コンピテンシーの理解」「他者理解・相互理解の深化」「チームを動かすスキル（リーダーシップ、ファシリテーション、合意形成力など）の理解と向上」「共通言語の増加」「コミュニケーション促進」「相互尊重の促進」「組織や立場の垣根の払拭」「ネットワークや関係の強化」「チーム力の向上」が関連していた。

以上より、【患者の力を信じて患者中心の退院支援を推進する】能力については、日々の看護実践のなかで教育的な関わりがされており、学ぶ機会があるが、研修という形での能力獲得のための取り組みはなかった。研修などで概念や理論を学び、実践と統合して考え、能力の向上を図る必要がある。また、【退院への抵抗・困難があっても諦めずコツコツと支援に取り組む】能力と【自職種・他職種の専門性を理解して互いに補完・協力しながら支援する】能力のうち、看護師の態度や姿勢に関わる能力に対応する教育・学習は抽出されず、倫理感や態度に関する教育が難しいことが示唆された。一方で、文献の分析からは、倫理感や態度に関する能力獲得に関連した研修が確認されたため、現行教育プログラムの考案に反映させていく必要がある。

(4) 精神科病院における専門職連携を基盤とした退院支援の質を高めるための現行教育プログラム案の洗練

精神科病院における専門職連携を基盤とした退院支援の質を高めるための現行教育プログラム案について、単科精神科病院 4 施設の看護部教育責任者 4 名からの意見をもとに検討し、洗練した。精神科病院における専門職連携を基盤とした退院支援の質を高めるための教育方法を表 1 に示した。専門職連携を基盤とした退院支援に必要な看護実践能力である 3 つの能力の〔下位項目〕を示し、その能力に対応する教育上のねらいと教育方法を整理した。

表 1 患者の力を信じて患者中心の退院支援を推進する能力獲得のための教育方法

	必要な能力	ねらい	教育方法
患者の力を信じて患者中心の退院支援を推進する能力	〔患者の意向や気持ちを一番に考える〕 〔患者の力を信じて失敗を恐れず退院にトライする〕 〔どの患者にも退院に向けての見通しをもつ〕	・リカバリー志向、ストレングスモデルに基づくアセスメントができる ・管理職やリーダーとなる看護師などが他看護師のモデルとなるようリカバリーやストレングスモデルの考え方に基づく実践をし、アドバイスができる	・リカバリー志向、ストレングスモデルに基づくアセスメントについての研修を継続的に行う。 ・リカバリー志向、ストレングスモデルに基づくアセスメントについては、講義形式だけでなく、日々の実践を基盤に学ぶ。 ・管理者看護師などがカンファレンスや日々の看護実践のなかでリカバリー志向やストレングスモデルの考え方に基づいてスタッフナースと話をする。 ・リカバリーやストレングスの考え方について知るために他職種の視点を知る
	〔長期入院に問題意識をもち患者の地域生活移行を目指す〕	・患者の希望や意向を大切に、患者中心に支援を考える ・不要な長期にわたる入院は患者の尊厳や権利に関わる問題であると認識できるような倫理観をもつ	・患者の希望や意向を意識的に把握し、倫理カンファレンスを行う
能力も諦めずコツコツと支援する	〔退院支援に率先して取り組む〕	・管理職看護師などが率先して退院支援に取り組む姿勢を示し、他看護師と退院支援に取り組むことができる	・管理職である師長が、病棟で退院支援をどのように進めていくか明確に示すことが必要であるため、師長が退院支援について話し合い、考える機会をつくる ・カンファレンスや看護実践の場など日頃から、スタッフナースと管理職看護師と一緒に退院支援について考える機会をつくる
	〔患者の退院を諦めない〕 〔慢性期にある患者にも退院に	・障壁があっても地域生活移行支援をすすめるためには、「入院医療中心から地域生	・診療報酬改定など精神医療の動向について各看護師が主体的に知る必要性を周知する ・リカバリーについて理解するために、当事者あるいは地域の支援者から、当事者が精神障

	向けてコツコツと支援する)	活中心へ」という基本理念やリカバリーについて真に理解する	害を抱えながらどのように地域生活を送っているかについて学ぶ
	〔退院に反対・消極的な人がいても支援に取り組む〕	・退院支援に積極的でないなどコンフリクトが生じやすい相手とも連携をしていくためのコミュニケーションスキルを身につける	・医師との調整役を担うことが多いリーダー看護師を中心にアサーションなどコミュニケーションに関する研修を行う ・家族とのコミュニケーションに関する研修を行う ・看護実践の場で実際に他職種や家族とコミュニケーションをとる
自職種・他職種の専門性を理解して互いに補完・協力しながら支援する能力	〔退院・地域生活移行を支援するという目標・方針を組織内で共有する〕 〔多職種連携の必要性を理解する〕	・【退院・地域生活移行を支援するという目標・方針を組織内で共有する】【多職種連携の必要性を理解する】ことは、連携しながら支援を行うために基本的なこととして理解する	・病院として退院支援・地域生活移行支援をどのように進めていこうとしているか確認をする ・多職種連携の必要性の理解を高めるために、多職種カンファレンスや治療プログラムなど、多職種での実践にスタッフナースが参加できる機会を増やす
	〔他職種の専門性を考慮して支援の依頼や相談をする〕	・他職種の専門性を理解する	・新規採用者などに対して必要に応じて各職種の役割に関する研修を行う ・日頃の看護実践のなかでの他職種との関わりを踏まえて、他職種の役割だけでなく、視点の違いを知る ・看護師のみの教育を考えるだけでなく、病院全体としてどのような人材育成をしていくのか各職種の責任者と共有し、教育内容を検討する
	〔他職種と意見交換をして看護師としての支援を考える〕	・カンファレンスやファシリテーションについて理解し、実践できるようになる ・看護師間、他職種間でコミュニケーションを図る	・カンファレンスやファシリテーションに関する研修を行う ・相手の意見をしっかり聞いたうえで、自分の意見を述べるができるように、研修をグループワーク、ディスカッション形式で行う ・ファシリテーションやカンファレンスについて、実践の場で見て学ぶ
	〔退院に向けて必要な支援や社会資源についての知識をもち利用につなげる〕	・社会資源の利用とリカバリーとの関連について理解する	・退院した人やピアサポーターから話を聴く研修を取り入れる ・病院の関連施設や他施設など社会資源について、精神保健福祉士等の話を聴く機会や実際を見て知る機会をつくる
	〔他職種の働きに感謝する〕 〔各職種の役割を超えて協力する〕	・他職種の働きに感謝する、各職種の役割を超えて協力することができるように、相互に尊重することができる ・他職種の働きに感謝する、各職種の役割を超えて協力することができるように、組織や立場の垣根を払拭できる	・ケア会議の場など日頃の看護実践のなかの協働の場面を、他職種について理解を深める機会とする ・多職種で病院としてどのような教育をしていくのか検討する

文献

- 石川かおり, 葛谷玲子. (2013). 精神科ニューロングステイ患者を対象とした退院支援における看護師の困難. 岐阜県立看護大学紀要, 13(1), 55-66.
- 厚生労働省. (2014a). 長期入院精神障害者の地域移行に向けた具体的方策の今後の方向性. 2020-08-10. <http://www.mhlw.go.jp/file/05-Shingikai-12201000-Shakaiengokyokushougai/hokenfukushibu-Kikakuka/0000051138.pdf>
- 厚生労働省. (2014b). 良質かつ適切な精神障害者に対する医療の提供を確保するための指針. 2020-08-10. https://www.mhlw.go.jp/seisakunitsuite/bunya/hukushi_kaigo/shougai/shahukushi/kaisei_seisin/dl/kokujianbun_h26_01.pdf

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計1件（うち査読付論文 1件/うち国際共著 0件/うちオープンアクセス 1件）

1. 著者名 葛谷玲子 石川かおり	4. 巻 21
2. 論文標題 精神科病院における専門職連携を基盤とした退院支援に必要な看護実践能力	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 岐阜県立看護大学紀要	6. 最初と最後の頁 37-47
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

〔学会発表〕 計4件（うち招待講演 0件/うち国際学会 0件）

1. 発表者名 葛谷玲子
2. 発表標題 精神科病院の病棟看護師が捉える退院支援における専門職連携の現状と影響要因
3. 学会等名 日本精神保健看護学会第27回学術集会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 葛谷玲子
2. 発表標題 精神科病院における専門職連携を基盤とした退院支援に必要な能力
3. 学会等名 第10回日本保健医療福祉連携教育学会学術集会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 葛谷玲子
2. 発表標題 精神科病院における専門職連携を基盤とした退院支援に必要な能力獲得のための看護師現任教育
3. 学会等名 日本看護学教育学会第28回学術集会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 葛谷玲子
2. 発表標題 精神科病院における専門職連携を基盤とした退院支援に必要な看護実践能力の特徴
3. 学会等名 第40回日本看護科学学会学術集会
4. 発表年 2020年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------